

報道関係者各位

2024年3月27日

国立成育医療研究センター

鶏卵アレルギーなど、子どもの食物アレルギーで
親の育児ストレスが増加することが明らかに
～全国大規模調査では初の研究結果～

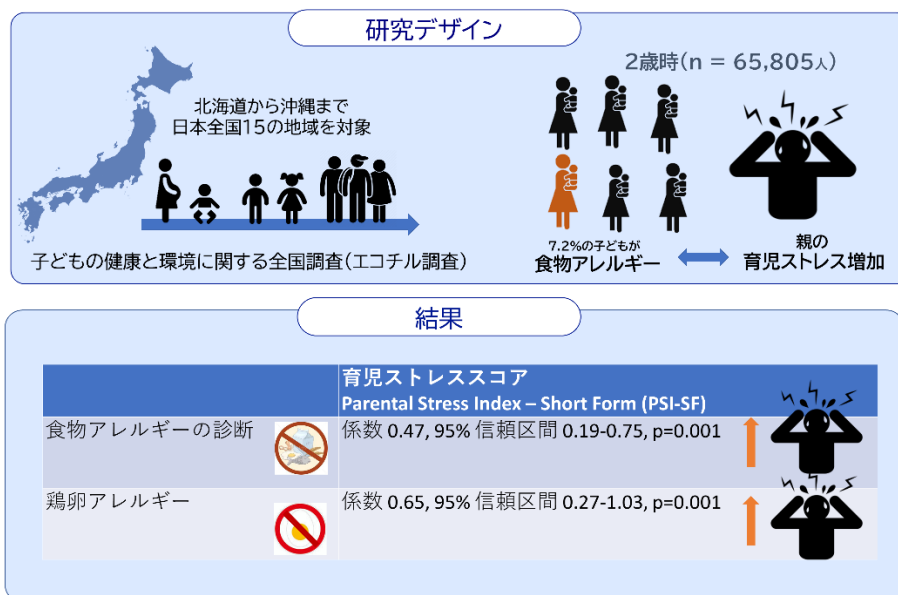
国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵、理事長：五十嵐隆）エコチル調査研究部・アレルギーセンターの大矢幸弘、山本貴和子らの研究グループは子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査¹）約6.5万人のデータから、子どもの食物アレルギーと親の育児ストレスの関連性について分析しました。

その結果、食物アレルギーの子どもを持つ親は、育児ストレススコアが有意に高くなることが明らかとなりました。種類別の調査では鶏卵アレルギーについても同様の傾向が見られた一方で、牛乳、小麦、ナッツアレルギーでは明確な関係性は認められませんでした。

本研究成果は、アレルギー分野の雑誌「Allergy」に掲載されました。

【プレスリリースのポイント】

- 世界で初めて、大規模調査から子どもの食物アレルギーが親の育児ストレスを増加させることを明らかにしました。
- 鶏卵アレルギーが親の育児ストレスを増加させることがわかりましたが、牛乳、小麦、ナッツアレルギーでは明確な関係性は認められませんでした。
- 医療従事者は日常の診療の中で、食物アレルギーの子どもを持つ親のストレスに注意しながらコミュニケーションを取ることが重要です。



【研究デザインとその結果】

¹ エコチル調査とは、胎児から子どもが13歳になるまで定期的に健康状態を確認する、日本の約10万組の子どもとその両親が参加する大規模な疫学調査。

【背景・目的】

これまで食物アレルギーがある子どもとその家族について、食物アレルギーが不安や生活の質の低下と関連するという報告は多くありました。しかし、子どもの食物アレルギーの種類や数による親の育児ストレスに関する報告はありませんでした。そこで、日本の大規模調査であるエコチル調査で Parenting Stress Index-Short Form (PSI-SF)²を用いて、子どもの食物アレルギーと親の育児ストレスについて検討しました。

【研究結果】

2011年1月から2014年3月までにエコチル調査に登録した、北海道から沖縄まで日本全国15の地域の親子を対象としました。統計分析の対象となる子どもは65,805人でした。そのうち、2歳の時点で7.2%の子どもが食物アレルギーの診断を受けていました。

分析した結果、子どもに食物アレルギーの診断があると、親の育児ストレススコア（係数0.47、95%CI 0.19-0.75、 $p = 0.001$ ）が有意に高くなることが明らかとなりました。

また、子どもの食物アレルギーの種類別による分析でも、鶏卵アレルギーについて同様の傾向が見られました。ただし、牛乳、小麦、ナッツアレルギーでは明確な関係性は認められませんでした。

【発表者のコメント】

子どもの食物アレルギーの診断が育児ストレスを有意に増加させることを明らかにしました。さらに、食物アレルギー別の分析でも子どもの鶏卵アレルギーが親の育児ストレスを増加させていました。鶏卵アレルギーは日本で最も一般的な食物アレルギーですが、日本では多くの加工食品や菓子類に鶏卵が含まれており、親は常に意識する必要があることから、他の食品よりもストレスが大きくなる可能性が考えられます。

なお、今回の研究は重症度を考慮した結果ではありませんので、重症度を考慮したさらなる調査も必要と考えます。

また、医療提供者は食物アレルギーを持つ子どもの親のストレスに注意を払いながら日常の診療を行う必要があります。

【発表論文情報】

題名：Parental stress and food allergy phenotypes in young children: A National Birth Cohort (JECS)

著者：山本貴和子、朴慶純、岩元晋太郎、小西瑞穂、齋藤麻耶子、佐藤未織、宮地裕美子
目澤秀俊、西里美菜保、羊利敏、熊坂夏彦、大矢 幸弘

所属：国立成育医療研究センター

掲載誌：Allergy

DOI：10.1111/all.16035

【問い合わせ先】

国立成育医療研究センター 企画戦略局 広報企画室 神田・村上
電話：03-3416-0181（代表） E-mail:koho@ncchd.go.jp

² PSI-SF とは、19の質問に答えることで簡単に短時間に親の育児ストレスを測定できるツールのこと。